心理支援ツールを活用したアプローチの構成概念

―実施状況の質的分析からの考察―

Conceptual Framework of the Psychotherapeutic Activity Tool Approach:

Considerations from a Qualitative Analysis of Implementation Status

中村　泰子
NAKAMURA　Yasuko
大阪市中央こども相談センター　東部分室
Osaka City Central Child Guidance Center East Branch Office
Key words: 心理支援ツール，非言語的アプローチ，相互作用

目　的

親子関係再構築支援においては、時流や当事者家族に合わせた柔軟性や多様性、こどもや家族の主体性の尊重が必要である。発表者は支援の在り方を模索する中で、心理支援ツールの開発・活用を進め、実践を重ねてきた。心理支援ツールとは、心理支援や親子関係再構築支援で広く活用できる教材や素材などの非言語的アプローチで、視覚化や体験による感情認識やコミュニケーション促進の効果が認められている。心理支援ツールの実施状況の質的分析から、ツールの媒体作用や関係性の中で生じる相互作用について考察した。

方　法

実施時期：202X 年～202X＋1年
対象：親子プログラムに参加した親子3組の実施状況
方法：実施状況は、参加者の会話や観察等についての支援者による記録をデータ化したものを用いた。
倫理的配慮：実施状況は匿名化して個人が特定されないようデータ化し、当事者に研究使用の同意を得た。発表については所属の承認を得た。

結　果

実施状況データの中から転換点となる部分を取り上げ、SCAT による質的分析を参考に、(1)注目語、(2)言い換え、(3)概念語、(4)テーマ・構成概念の手順でコーディングした。分析結果として7つの概念ラベル(注意／共同注意、ツールの媒体作用、身体感覚を伴う活動、認識と感覚・情動の調整、反応の外在化、フィードバックによる調整、主体性や自己認識の促進)が導き出された(表1)。さらに概念ラベルを「媒体作用」「内的作用」「相互作用」の3つに整理し、解釈モデルを図式化した(図1)。

考　察

知覚や情報処理には、トップダウンとボトムアップの方向性がある。本研究では、トップダウンを意識レベルからの処理、ボトムアップを無意識・身体レベルからの処理として検討する。

当事者の**内的作用**は、①ツールへの注意によって、②刺激(視覚・触覚情報)を受け取り、③無意識(身体)レベルの情動・身体感覚(触る・選ぶなど)からのボトムアップ処理と、④意識レベルでの経験やパターン認識・想起・検索からのトップダウン処理により、気づきやずれの修正・調整が行われる。これらの反応は、⑤ツールの取組継続、カード配置換え等の形での表出や、言語化として外在化する。

支援者の**内的作用**は、❶ツールへの共同注意から、❷刺激を受け取り、❸支援者自身の情動・感覚からのボトムアップ処理と、❹当事者の生活背景や心理状態等の想像・見立て・理解からのトップダウン処理により、ずれの修正・調整を経て、❺共感・フィードバックとして外在化する。

当事者の取組態度や表出、言語化等の情報(⑤)は、支援者の❸→❹→❺に反映される(**相互作用**)。当事者は、支援者からの共感・フィードバック(❺)を受け取り、さらに③→④→⑤の循環が促進される(**相互作用**)。

ツールへの取組で生じるトップダウン／ボトムアップ処理の循環や、ずれの修正・調整は、気づきにつながるものと考えられた。ツールのルールや他者の反応によっても、普段のコミュニケーションパターンを緩める心理的余地ができ、生活場面とは異なる反応が生じやすくなる。このようにして、対話やコミュニケーション促進の循環が生まれることが示唆された。現実場面の出来事やトラブルを話し合うことに当事者や家族が抵抗や回避を示す場合や、話し合いが対立の激化につながるような場合、ツールの**媒体作用**によって、過去の体験に結びつく感情を「いま・ここ」で想起しながらも、実際の体験を取り扱うよりも安全性や距離を保てる対話が可能になるだろう。ツールが手がかりとなり、対話が活性化し**相互作用**の循環が生まれコミュニケーション促進・関係性改善につながることも、**媒体作用**と考えられた。今後は、この解釈モデルのさらなる検討として、他の心理学的モデルとの比較から考察したい。

表１．概念ラベル

	概念ラベル	概念整理（図１への整理）
1	注意／共同注意	媒体作用（当事者①、支援者❶）
2	ツールの媒体作用	媒体作用（当事者①→②、支援者❶→❷）
3	身体感覚を伴う活動	内的作用（当事者③→④、支援者❸→❹）
4	認識と感覚・情動の調整	内的作用（当事者④→③、支援者❹→❸）
5	反応の外在化	相互作用（当事者⑤→支援者❸→❹→❺に循環）
6	フィードバックによる調整	相互作用（支援者❺→当事者③→④→⑤に循環）
7	主体性や自己認識の促進	相互作用（当事者⑤←→支援者❺）

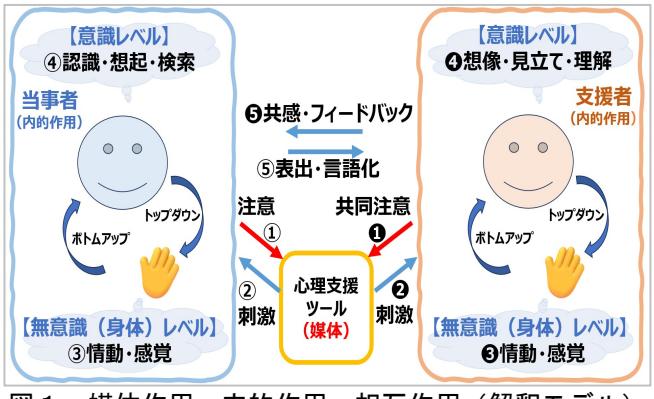


図１．媒体作用、内的作用、相互作用（解釈モデル）